

大阪万博

2025年のこんにちは

ご隠居がやってくる。「万博は行ってきたかい?」「まだであります、9月4日に大阪で全国木材産業振興大会がありますので、その前後で行ってきます。」と答えると、ご隠居が万博のお土産を見せてくれる。ミヤクミヤク君かなと思いきや(1970年大阪万博の記念硬貨でした!), 1970年に大阪で開催された万国博覧会は、77か国が参加し6400万人を超える入場者があったそうだ。テーマは「人類の進歩と調和」。入場料は、大人800円、青年600円、小人400円だそうだ。当時の平均月収は、5万円、高いのか安いのか?

コインの裏のシンボルマーク、桜5花卉は、世界5大州を表し中央の円は、日本の日の丸、その周囲の空間は、発展と進歩への余裕を表し、さらに全体の安定した印象は品位と調和を示し、日本万国博覧会が世界の催しであると高度成長期の日本の勢を感じるデザインコンセプトとなっている。



1970年大阪万博の記念硬貨

ガス・パビリオン—当時話題になった建物のひとつでテーマは「笑いの世界」

外観は、すべての面を曲線にした、白一色の建物。豚の蚊取り線香器かと思わせる口を大きく開けて笑っているいかにもユーモラスな建物。内部は、展示ホールと映像ホールとレストランも完備していた。上映された映画は、5楽章から構成されていて、第1楽章はオーケストラの演奏から木曾節、第2楽章は華やかな映像のディスプレイから、ギャグの連発、第5楽章は、クレイジーキャッツの演奏と笑いのシンフォニーとして上映され、観客は笑いの連続だったという話を、後から同僚に聞いたという。

何かご隠居に、思い出として残っているのはありますかと伺うと、アポロ12号が持ち帰った月の石ではなく、三波春夫の「1970年のこんにちは」という歌でもなく、初めて食べたヨーグルトと、各パビリオンのテントの建物だそうなのちの後楽園ドームの屋根に使われるようになったとか。

2025年の大阪万博にもガスパビリオン「お化けワンダーランド」として出展している。

「化ける 未来」カーボンニュートラル社会の実現に向けて一人一人の意識や行動を変える(化ける)ことの大切さを伝えるという。

今回の万博は、「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに8つの「命を知る」「命を育む」「命を守る」「命をつなぐ」「命を拡げる」「命を高める」「命を磨く」「命を響きあわせる」と掲げております。ご隠居のように外側だけでなく、各パビリオンに入場し是非ともテーマを感じ取ってほしいものです。

聞くところによると木造の大屋根リングを始め、木材をふんだんに使ったパビリオンが多いとの事、未来のヒントをもらったかもしれません。

ご隠居曰く「未来」という字には、両方「木」という字が、含まれているとのこと。



EXPO'70 大阪万博「ガス・パビリオン」